

授業を見せてもらおう

広島大学附属三原幼稚園（広島県三原市）

[5歳児・1年生]

お店屋さんごっこで、トレイに輪ゴムをかけて作った楽器を景品にしている姿が見られた。その姿を紹介すると、さっそく子どもたちは個々で、あるいは友達と一緒に、いろいろな物を使って楽器を作っては保育者や友達に聞いてもらうことを楽しむ姿が、何日もかけて見られるようになった。



トレイのはしっこでゴムを弾いたらこんな音ができるよ



箱ごと揺らすと台風の音ができる

事例の詳細 <http://www.sony-ef.or.jp/preschool/practice/vol6/2-2.html>

1年生の授業でも、児童が身近な素材を使って楽器を作るという活動があったので、見せてもらうことにする。

< 小学校に行ってみて >

- ・自分たちが使ったことのないアルミホイルを木の枝に巻きつけ、それに割り箸をこするようして音を出している様子に驚く。
- ・ヤクルト容器に厚紙を切って入れている姿を見て、厚紙そのものは身近にあってもそれを楽器作りで、小さく切って入れるというように活かしたことはなく、厚紙でも楽器が作れるということを発見する。
- ・アルミ缶を叩いて音が出ることは経験しているが、それを5個つなげて音を出している姿を見て、沢山つなげるともっと面白い楽器になることを見出す。



< 小学校から帰った後に >

- ・参観後、早速1年生の楽器をヒントに、新たな楽器を作る姿が見られ始める。
- ・アルミ缶を何個もつなげて、「トントントンって音ができるよ」ヤクルト容器に厚紙を小さく切った物の中に入れる。「叩く棒をストローと割り箸でやったら、どっちが大きい音ができるかな。あ、割り箸で叩いた方が大きい音ができる」
- ・「プリンカップに小さいストローと紙を入れたら小さい音ができるよ。軽いから小さいんよ。でも、ドングリは小さいけど大きい音ができるよ。ドングリが重いからね。だって中に実があるじゃろ」
- ・紙コップにストローを切って入れる。「カシャカシャ音ができる」



< 考察 > 小学校教員と話し合う中で見えてきたもの

【子どもを見る視点の吟味】

今回の音作りの活動について話し合う中で、小学校教員から次のような意見が出た。

「幼稚園は個人差が大きいので大まかなねらいを設定しているということはよく分かるが、例えば“素材から出る音の特徴に気付く”というのは、5歳児では具体的にどのようなことなのか、保育者側がもう少し明確にもっておく必要があるのではないかなあ？」

そこで、“素材から出る音の特徴に気付く”とは具体的にどのような姿なのか、子どもを見る視点を改めて明確にして環境構成を考えるに至った。

素材によって音が違う

(例) 太い・細い / 長い・短い / 硬い・柔らかい / 大きい・小さい / 材質の違い など

素材の扱い方によって音が違う

(例) 振る・叩く・弾く { 上下に・左右に / 強く・弱く / 速く・遅く } など

素材の組み合わせ方によって音が違う

(例) 素材と手 / 素材と素材 / 素材の数 など

但し、感じ方や表現の仕方には個人差があるので、個々に応じて育むことが大切である。

みどころ

楽器作りを楽しんでいた子どもたちにとって、小学校の授業を見せてもらうことで更に刺激を受けました。同じにはできなくても「こんなことができるんだ」「こんな風にやってみたい」という発想の幅が広がりました。また、ここでは幼・小の教師間の交流により、気付いたことを伝え合うことで保育を振り返り、改めて子どもの姿をよく見たり、環境を工夫したりすることにつながっています。幼小連携は、子どもたちが一緒に活動したり見合ったりすることにとどまらず、子どもの科学する心の育ちを共に考える指導者側の姿勢が大切であることが分かります。